

厚生労働省より、薬事工業生産動態の平成 29 年(2017 年)年報と平成 30 年(2018 年；以降は年号を西暦表記)1 月から 12 月までの月報が 4 月に公表されました*1。直近のデータは 2018 年の月報ですが、修正の可能性がある為、ここでは 2017 年年報のデータを用いて概観します。

2014 年以降の国内生産額は減少していたものの、2017 年は 1 兆 9,900 億円(前年比 4.0%増)と増加に転じました。輸出額は 6,190 億円(同 6.0%増)、輸入品の国内出荷額は 1 兆 6,492 億円(同 6.0%増)と 2016 年に続き増加となりました。この結果、国内市場規模(国内生産額+輸入品国内出荷額-輸出額)は 3 兆 205 億円(同 4.6%増)とはじめて 3 兆円を突破した一方で、「輸入品額-輸出額」が 1 兆円を超えました。

全体としては、国内市場規模は前年比 4.6%拡大しましたが、国内生産品シェア((国内生産額-輸出額)÷国内市場規模)は前年比 0.7%縮小しました。2012 年以降の国内生産品シェアは縮小しており、輸入品への依存傾向が続いています。

下表に本統計が示す大分類ごとの国内市場規模、及び国内生産品シェアの一覧を 2015 年からの推移と共に示します。

大分類	国内市場規模(億円)				国内生産品シェア				
	2015	2016	2017	2016→2017	2015	2016	2017	2016→2017	
診断系	画像診断システム	2,671	2,456	2,541	3.4%	54.0%	58.2%	61.6%	3.4pt
	生体現象計測・監視システム	2,181	1,850	2,158	16.7%	61.6%	55.6%	60.0%	4.5pt
	医用検体検査機器	606	928	543	-41.5%	62.8%	72.8%	68.8%	-4.0pt
	画像診断用 X 線関連装置及び用具	294	231	214	-7.7%	42.8%	43.2%	41.1%	-2.1pt
	施設用機器	361	492	439	-10.7%	63.5%	54.7%	71.0%	16.3pt
治療系	生体機能補助・代行機器	5,683	6,186	6,425	3.9%	37.3%	34.5%	31.5%	-3.0pt
	処置用機器	7,516	8,221	8,670	5.5%	54.8%	51.6%	48.6%	-3.0pt
	治療用又は手術用機器	1,292	1,642	1,788	8.8%	24.1%	25.1%	19.5%	-5.6pt
	鋼製器具	496	596	626	5.1%	29.0%	28.6%	23.8%	-4.8pt
その他	眼科用品及び関連製品	2,469	2,492	2,778	11.5%	19.3%	20.3%	20.8%	0.4pt
	歯科材料	1,654	1,513	1,536	1.6%	74.7%	74.9%	81.3%	6.3pt
	家庭用医療機器	1,422	1,306	1,547	18.4%	62.1%	60.3%	70.6%	10.3pt
	歯科用機器	519	538	538	0.0%	65.7%	64.8%	63.5%	-1.3pt
分野別	衛生材料及び衛生用品	316	419	403	-3.9%	25.2%	16.1%	20.9%	4.8pt
	診断系医療機器合計	6,113	5,958	5,895	-1.1%	57.6%	58.8%	61.6%	2.9pt
	治療系医療機器合計	14,987	16,644	17,509	5.2%	44.7%	41.8%	38.5%	-3.3pt
	その他医療機器合計	6,378	6,268	6,802	8.5%	47.3%	45.4%	49.1%	3.8pt
合計	27,479	28,870	30,205	4.6%	48.1%	46.1%	45.4%	-0.7pt	

【表：薬事工業生産動態統計年報における国内市場規模と国内生産品シェアの推移(2015-2017 年)】

国内生産品シェアの高い診断系医療機器のうち市場規模の大きい「画像診断システム」と「生体現象計測・監視システム」の市場規模はそれぞれ前年比 3.4%増、前年比 16.7%増し、国内生産品シェアもそれぞれ拡大しました。また、ここでは「医用検体検査機器」の市場規模が前年比-41.5%と目立ちますが、2015 年と比べ-10.4%であり、更に 2015 年から 2016 年にかけて市場規模が 53.2%増と急増していた点を勘案しますと、2016 年の急増による影響を受けた可能性もあります。診断系医療機器の市場規模は全体として前年比-1.1%と縮小しました。


国内市場規模の 60%弱を占める治療系医療機器では、その市場規模は前年比 5.2%増と国内市場規模全体の拡大(4.6%)を上回りました。また、治療系医療機器の全ての分類で、国内生産品シェアは低下し、輸入品依存の傾向が強まりました。

このように、2017 年の市場規模拡大は、分野別として示したように、国内生産品シェアの高い診断系医療機器が伸びず、治療系医療機器の輸入品の増加が顕著でした。

なお、薬事工業生産動態統計は 2019 年 1 月調査分からの新調査が導入されています。今後より精度の高いデータが公表されると予想され、今後の調査分析活動に活用していきます。

*1 <http://www.mhlw.go.jp/topics/yakuji/2017/nenpo/>

(医療機器政策調査研究所 茂木 淳一 記)

医療機器政策調査研究所からのお知らせ  @JFMDA_MDPRO
Twitter で医療機器産業に関連するニュースを配信中。医機連トップページからフォローできます。